

東北 お遍路紀行

第6回
ケルン・鎮魂の鐘と光
(岩手県久慈市)

未来を照らす、復興の道じるべ

久慈港に面したすわ緑地に建つ、石積み
のモニュメント「ケルン・鎮魂の鐘と光」。
東日本大震災の教訓を後世に「形あるもの」として伝えようと、市民や市内の企業
団体などからの寄付を受け、平成27年5月
に完成した。ケルンとは山頂や登山道に、
道しるべや記念として石を円錐形に積み
上げたもの。それをモチーフにしたモニユ
メントには、地域の復興や未来を指し示す
「標」^{しるべ}であってほしいとの思いが込められ
ている。

石積みの高さは、大震災で久慈市を襲っ
た津波と同じ14・5メートル。ケルンの先
端を見上げると、改めて自然の脅威を感じ
る。土台には震災時に発生したがれきや市
民が持ち寄った石が使われ、表面には、児
童らが願いを記した石がはめ込まれた。ま
たケルンの中ほどには斜めに穴を開け、光
の道を設けた。震災の発生した3月11日14
時46分には、その光の道をまっすぐに太陽
光が差し込む。

ケルンが向き合う久慈港は日本初の掘込
式港湾であり、県北地域の重要な漁港とし
て久慈市を古くから支えてきた。すぐそば
には、地域の守り神である諏訪神社が建つ。
ケルン設置に尽力し、現在は管理を行なう
「NPO法人 岩手・久慈ケルンの会」会長
の一沢明男さんは、「市民にとって大切な
場所に、市民の力で建てたモニュメント。
そこに大きな意味がある。明治、昭和の大
津波、そして東日本大震災の津波被害を忘
れることなく、明日への希望を光とともに
感じられる処^{ところ}になってほしい」と話す。

巡礼地と千年物語を 募集中！

巡礼地とその場所にまつわる千年先まで
語り継ぎたい物語を募集しています。

一般社団法人東北お遍路プロジェクト
<http://cocomichi.jp/>



- 1 ケルンと同じJC公園に設置されている「久慈港開発起源の碑」。東日本大震災の津波で台座が破損したが、今はもとの位置に修復されている
- 2 ケルンの表面には、児童らが復興への願いを書き込んだ石がはめ込まれている
- 3 モニュメント設置に尽力した岩手・久慈ケルンの会の、(左から)黒沼忠雄さん、一沢明男さん、西村秀雄さん
- 4 ケルンは久慈港を一望する場所に建てられた。右奥には朝のドラマで一躍脚光を浴びた小袖海岸も見える